

## サハ共和国第4回国際投資会議

ERINA理事長兼所長 吉田進

### 第4回国際投資会議

6月27～28日、ヤクーツク市で開催されたサハ（ヤクート）共和国第4回国際投資会議の開幕式には、シュティロフ大統領、ポリーソフ首相が出席、挨拶と基調報告を行った。アレクセエフ第一副首相が会議の総合司会を一貫して務めた。

私は「エネルギー協力と日ロ関係」という講演を行った。初めの言葉を引用させていただく。「外国人として最初に報告する光栄を担わせていただき感謝申し上げます。しかもヤクートウーゴリ（ヤクート石炭公社）総裁ペトロフ氏の講演の後です。30年前に私はヤクート炭開発の『南ヤクート炭開発基本契約』の交渉及び調印に参加しました。ヤクートは私にとって思い出の多い国です」。

会議の出席者は324名、うち外国からは27名であった。日本からの参加者は、三菱総研、双日、三菱商事、伊藤忠などで、住友商事、三井物産は現地社員をモスクワから派遣した。

基調報告の後、輸送、電力、ガス・エネルギー、石炭、木材、建材、先進技術などの分科会が開かれた。国際投資会議はこれまで3回開かれたが、今回の会議の特徴は学術的な側面が強く打ち出されたことにある。そのために、イルクーツクのエネルギーシステム研究所が中心となり、各分科会を組織した。

輸送セッションでは、国家プロジェクト的プログラム「2005～2010年のサハ共和国の総合輸送と2015年までの基本的方向」をどう実施しているかが討議の中心課題となった。運輸・通信・情報省のチレノフ大臣は、「サハ共和国の輸送戦略はロシアとその極東地域の経済成長テンポを高める要素である」という報告を行った。

電力セッションでは、低品位炭と褐炭を利用した大型発電所の建設が討議され、電力の域外への転送、中国への輸出の可能性について討議がなされた。このセッションでは、黒龍江省電力有限公司の王斐氏が中国の電力事情について報告を行った。

エネルギーセッションは最も注目され、ガスプロム、ロスネフチ、TNK-BP、ルクオイルなど関係石油・ガス会社がほとんど参加した。自治共和国側からは、石油・ガス開発の潜在的な可能性と各プロジェクトの進行状況について報告があり、熱心な討論が行われた。各石油・ガス会社が採掘権、開発権を持ちながら、遅々として実施しないことについて批判がなされた。

石炭セッションでは、極東における石炭工業の総合発展、石炭輸出を保証するための輸送問題、エリガ炭田の開発、極北地の炭坑における掘削の物理的・技術的問題が討議された。なお今後の問題として褐炭の総合利用、石炭化学の発展、ブリケット生産の組織が課題として提起された。このセッションでは、輸出港としてワニノ港の石炭ターミナル建設の問題も取り上げられた。

木材セッションでは、新しい製品開発、設備の技術的革新、複合輸送（河川と鉄道、鉄道 - 河川 - 北海）の問題が討議された。基調報告は、建設・建材省デレボフスキー大臣の「サハ共和国における林業の現状 - 問題点と発展の将来性」だった。建材セッションでは、耐寒構造の問題以外に公共投資と民間投資の結合が大きな話題となった。

モスクワからはロシア科学アカデミー幹部会委員のグランベルグ氏が参加した。彼はサハ開発の立案者の一人である。ちょうど70歳を迎えられたので、閉会の時に盛大な祝賀式が行われた。私も彼とは70年代からの付き合いなので、心から祝福した。

#### 大統領が重視するサハの開発

1月6日にプーチン大統領がサハを訪問し、ロシアのクリスマスを自治体の指導者たちと共に過ごした。

大統領は、ヤクートの経済発展をロシア極東発展政策の一環として位置づけ、関係者と一緒に将来のプログラムについて真剣に検討した。

特にベルカキット - ヤクーツクの鉄道建設については連邦の投資を行い、従来2012年の完成予定を2008年に前倒しする措置を講じた。4月になり、プーチン大統領は太平洋石油パイプラインのルート、環境保護派の意見を入れてバイカル湖のかなり北方へ変更したが、1月の時点で、彼はルート変更の可能性をすでに予見していたことになる。石油パイプラインの敷設は、極東の経済発展にとって起爆剤となる。石油パイプラインの新しいルートは、ヤクートの南西部を1,400kmにわたって横断する。レナ河とこの鉄道がパイプライン建設のロジスティック面の保証となる。また、タラカンなど石油産地に近い所を通るので、新産地の開発を刺激し、石油生産が開始された暁にはパイプライン幹線までの輸送距離が短く、コスト低減につながる。

#### サハ共和国の大型プロジェクト

サハ共和国は豊かな地下埋蔵物があり、現在のところ、金、ダイヤモンドと石炭が富の源泉になっている。大量にある低品種炭と褐炭は、大型発電所で電力に転化し、他地域と国外に売電することができる。現在ブラゴヴェシチェンスクと黒河間では、22万kVのシリウス・送電線が建設されており、年間20億kWhを国境貿易の枠内で送電する

予定である。

30年前に日本は、石炭とダイヤモンドの開発に大きく寄与した。前者には、3,500台以上のブルドーザー、エクスカベーター、ダンパーを、後者には1,300台の120トン大型ダンプ、620馬力のブルドーザーをバンクローンで供給した。これら極東開発プロジェクトが日ソ貿易をロシアの対資本主義国貿易の第1位に押し上げた。

ヤクート炭は今日でも300万トンが日本に供給されているが、まもなく枯渇し、2012年にはエリガ炭の供給が始まる。石炭プロジェクトは、今後とも日ロ、特に日本とヤクートをつなぐ絆となる。

30年を経た現在、日本はヤクートとの協力関係を再構築する時期が来たと考える。

現在の大きなプロジェクトは次のとおり。

鉄道建設（ベルカキット - ヤクーツク、将来はマガダムまで）

レナ川鉄橋建設（川幅4km以上）

ネジダニスコエ金鉱までの自動車道路建設（1.4億ドル）と金鉱開発

大型火力発電所の建設

鉄鋼基地の建設。ヤクートは天然ガスが出るので、近くにあるキムカムスコエ・ガーリンスコエ鉄鉱山の鉄を用いて直接還元を行うことができる

太平洋石油パイプラインの建設

タラカンスコエなど原油産地の開発

天然ガス田の開発とガスパイプラインの拡張

サハ共和国の面積は、310万km<sup>2</sup>。インドとほぼ同じ大きさで、日本の8.2倍に達する。また無限の地下資源を持っている。しかし人口は120万人に満たない。技術革新が進み、通信技術が発達している現在、優秀な人材を育成することによって、この国を豊かな自治共和国にすることは可能だ。